

## 成果報告書

### ザンビア共和国の子供たちの健康や生活環境の調査及び、 身体と心に関する健康教育の実施とその効果の研究

看護医療学部3年 横田亜弥佳

看護医療学部3年 二階堂未夢

#### <活動目的>

ザンビア共和国は、慢性栄養失調の児童が多く、感染症や下痢といった衛生状況を原因とした健康問題が数多く存在する。過去3年間には感染症対策の基本である「手洗い」について、オンラインでのアプローチをしてきた。今年度は首都ルサカにあるストリートチルドレン保護施設Nsansa Villageでワークショップを実施し、現地のニーズや健康問題、生活環境を把握する。同国では感染症が国民の死因の1つであり、私たちのワークショップは予防のために手洗いを実施できるようになることと、裸足で遊んでいるNsansa Villageの児童がケガをしないための環境を自らで作れるようになることを目的とした。また、滞在最終日は私たちが2週間の滞在で行ったワークショップを振り返り、ディスカッションを通じて「健康」について共に考え直す機会とすることを目指した。

#### <活動概要>

活動期間: 2023年8月1(火)~2023年8月15日(火)

活動場所: ザンビア共和国、Nsansa Village Community Development Mission

活動内容: ワークショップは、手洗い、歯磨き、栄養、Puberty & Hormones、ケガを予防するためのウォーミングアップおよび環境整備に分けられ、最終日には統括ワークショップを行った。

##### ①手洗いワークショップ

ノロウイルスを例に、私たちの手のひらに付着したウイルスや菌が一定期間生存し、それらが付着した手でご飯を食べると下痢やその他の感染症の原因になることを説明した。ポスターを用いて手を洗うタイミングと手の洗い方を学んだあと、手洗いローションを児童の手に塗り、石鹸と水を使って手洗いを実践した。

##### ②ケガを予防するためのウォーミングアップおよび環境整備

Nsansa Villageの児童はサッカーが大好きで、サンダルか裸足で遊んでいる。敷地内のグラウンドで石を拾わずに走るため足に切り傷ができ、靴を履いているときよりも怪我の程度が大きい。このワークショップでは、児童とともに石を拾いながらグラウンドの整備方法を伝え、運動会の前にはラジオ体操を実践し、準備体操の大切さを体験してもらった。

##### ③統括ワークショップ

Nsansa Villageの子どもたちのもつ健康観を探るために、“What makes you healthy?”をテーマに、A3の画用紙1枚に1人ずつ絵を描いてもらい、作品を通してディスカッションを行った。

#### <考察と展望>

① 当初年齢層の低い児童のみを対象に手洗い、歯磨き、栄養ワークショップをする予定であったが、先方からの依頼により対象を全員としてワークショップを行った。手洗いワークショップでは手洗いチェッカーを使うことで、洗い残しが可視化されゲーム感覚で楽しみながら手洗いを実践していた。課題として見受けられたのは、石鹸の使い方であった。私たちが普段手を洗うときは、石鹸を少し手のひらにつけて、両手で泡立てる。しかし、何人かの児童は石鹸を直接手にこすりつけて洗ってしまうため、「もう充分だよ」と声をかける必要があった。手の正しい洗い方と併せて、石鹸の正しい使い方も伝えなければ石鹸の無駄遣いになってしまうと感じられた。石鹸はリーダー格の男の子に管理してもらい、年齢層の低い児童にも手洗いを促すように伝えた。しかし、私たちがいなく

なったあとの手洗い状況を精査したり、新しく入ってきた児童にも手洗い指導できたりするようなモデルの構築の必要性が感じられた。

② 裸足で遊ぶとケガをすると伝えても児童は靴をすぐ脱いでしまう。また、ケガをした男の子が傷口を洗わないまま絆創膏を求めてくる場面が複数回あった。今回のワークショップは怪我の「防止」に努めたが、怪我をしたときに、目に見えなくても菌がいるということとその菌を可視化し、怪我をした際に「対処法」を伝えることに次回の渡航では試みたい。怪我をしたらまず流水で傷口を洗浄することや貼った絆創膏は定期的に貼り替えることなどは、低学年の児童だけではできないので、Nsansa Villageのスタッフや年齢層の高い児童と協力して、傷口からの感染症の防止に努める必要があると考えられた。

③ 参加した22人のうち、6人が栄養(野菜、りんご、米など)、3人が運動(ボールを蹴っている自分、バスケットボールコート)を描いており、食生活や運動習慣が健康に与える影響についてよく理解されていることが伺えた。興味深かったのは、家やシェルターの絵を描いた子どもが7人いたことである。Nsansaで暮らす彼らの中には、家庭内の虐待や親の死などによって路上で暮らしていた過去をもつ子が多い。”What makes you healthy?”という問いに対して家やシェルターなどの建造物を表現する思考過程には、家庭からストリートへ、ストリートからNsansaへと居住環境を変えてきた子どもたちにとって、屋根のある建物の存在がいかに大きな意味をもつものであるかが示されているのではなかろうか。

一方で、手洗いなどの衛生習慣について描いた子どもは2人であった。ワークショップで手洗いがなぜ重要かを問うた際には、「風邪を引かないため」などと答える子どもが多かったものの、”What makes you healthy?”という問いに対して自発的に手洗いを想起する子どもは少ないことがわかった。本プロジェクトで得た知見をもとに、手洗いははじめとする健康習慣の重要性の理解、それらの習慣の定着を目指して活動を継続する。

今回の渡航で行ったワークショップだけではなく、体を綺麗に保つことの大切さや食べ物がどのように消化されるのかについてもワークショップを開催してほしいと要望を受けた。次回の活動も対象者の理解度・ニーズを精査し、相手にとって意義のあるワークショップを企画していきたい。

#### <謝辞>

以上の研究の成果を得られましたのは、研究助成金のご支援をいただいたお陰です。この場を借りて深く御礼申し上げます。

図1 統括ワークショップの様子



図2 手洗いワークショップの様子

